

Osaka International Convention Center

Osaka

大阪国際会議場

グラシキューブ便り



関西・大阪文化力会議から

マハティール元マレーシア首相/羅鍾一元駐日大韓民国大使 講演要旨

特集

大阪の文化力、個性を集約して
もっと世界に発信すべきです。

コシノヒロコさんインタビュー

広報誌

2012
夏号/VOL.2

関西・大阪文化力会議から

21世紀のアジア太平洋と関西

4月25日水

大阪国際会議場などが主催

マハティール元マレーシア首相、細川護熙元内閣総理大臣ら、国内外の要人を招き、

発展を続けるアジアにおける日本のあり方等を考える

「関西・大阪文化力会議」(主催:大阪国際会議場、関西・大阪21世紀協会、大阪国際フォーラム)が、このほど当会議場で開催され、

延べ約1,600人の参加者が、文化や安全保障を切り口にした議論に熱心に耳を傾けました。

そのうち2つの基調講演の要旨をご紹介します。(文化力会議の議事録は別途作成中です。)

アジア太平洋の安定と発展のための文化戦略

元駐日韓民国大使 羅 鍾一氏



1940年ソウル生まれ。ソウル大学校政治学科卒業、同大学院修了、英ケンブリッジ大学政治学博士号取得。慶熙大学政治外交学科教授、慶熙大大学院長、駐英大使、大統領国家安保補佐官等を経て、駐日大使、又石大校長(第10代)などを歴任。2011年9月より漢陽대학교国際学部顧問教授。

私が本日皆さんにお伝えしたいことは、2つのメッセージに集約することができる。1つは、欧州統合の推進者として知られるフランスの政治家、ジャン・モネの「我々は国々を同盟させるのではなく。人々を結びつけようとしているのだ」という考え方である。もう1つは、最後にご紹介するツルゲーネフの「新しい土地を開拓するには、深く耕さなければならない」という言葉である。

東アジアは経済など多くの分野で、世界の中で重要な存在になっているが、安全保障や道徳、政治的リーダーシップ、ソフトパワーの分野では望ましいレベルからほど遠い。

過去の出来事に関する理解は互いに大きく異なり、全ての国が領土問題を抱えている。昨年のアジアの軍事支出は、歴史上初めて欧州を超えた。北朝鮮政府が地球探査の人工衛星を打ち上げると発表した時、国際社会はミサイル開発だと確信した。国家や人々の関係は、未だに「同盟」、「対立」、「覇権」など、19～20世紀と同じ語彙で語られている。

国家間の安全保障はハードとソフトという2つの角度から考えることができる。ハードとは、軍事や外交関係等である。ソフトとは、人々の関係の基礎となる文化、価値観、アイデンティティなどである。これまでではハードの安全保障しか語られてこなかったが、これ

からの国際関係においては、ソフトの安全保障をもっとよく考えていくことが重要だと考える。そして我々は、国家の安全保障や国益を政治家や専門家だけに任せるとではなく、個人の幸福、安全、利益に直接関わる重要なものとして考えていく必要がある。

私は、人間の価値観に、国籍やイデオロギーによる違いはないと思う。我々は共通の思考ができるコミュニティを形成すべきだ。6～7世紀、日本人は朝鮮半島や中国へ渡り、学術や宗教を持ち帰った。また、20世紀初頭、韓国と中国の人は日本に留学し、新しい思考や近代化を学んだ。そして今、私の大学の助教は日本人、前の助教は中国人だった。日中韓によく似た伝統芸能があるのは、長い歴史にわたる密接な交流の賜物だ。

現在も文学やドラマなどの分野で互いが影響を受け、この地域の文化市場は広がっている。近代化の過程でしばらく交流が停滞したが、文化という共通のルーツによって、過去の問題の解決も、2国間ではなく共同体として取り組むべきだ。

80年代半ば、バンコクで開かれたユネスコ・アジア支部の会議に参加したとき、私はアジアの人権宣言の草案を書く役に就き、人類として共通の価値観について、次の6つを原則としてまとめた。

①安全保障の基本原則

(ハイポリティックスだけでなく、雇用環境や精神面など、生活の様々な基本的要素)

②参加の基本原則(コミュニティへの参加)

③判断の基本原則(重要な物事の判断に一般の人も参加できる)

④選択の基本原則

(仕事・教育・人生設計などにおいて多くの選択肢がある)

⑤普遍性の基本原則(市民原理の規範を国籍に関わらず適用)

⑥倫理統一の基本原則

(公私や社会的身分に関わらず同じ倫理基準を適用)

最後に、冒頭にお話した19世紀のロシアの作家、イワン・セルゲイ・ヴィーチ・ツルゲーネフの小説『ヴァージン・ソイル』の言葉を紹介する。「新しい土地を開拓するなら、深く耕さなければならない」。これは安全保障についても言えることだ。



今こそ求められる日本の文化発信力

元マレーシア首相 マハティール・ビン・モハマド氏



1925年生まれ。シンガポールのキング・エドワード7世医科大学卒業、医学博士。開業医から、1964年に下院議員初当選。教育省大臣、副首相等を歴任し、1981年～2003年、マレーシア第4代首相。2003年最高位勲章「SMN勲章」及び「トゥン(Tun)」の称号を受ける。

第2次世界大戦は、米英と欧州諸国の連合国に、日独伊の枢軸国が敗北して終結した。当時は誰もが、戦勝国が繁栄して未来の世界を支配すると予想した。それは、国連で戦勝国が他の国々に対する拒否権を掌握したことからもわかる。

しかし、現在は状況が変わった。拒否権を振りかざす国はかつての大國ではなくなった。そして、欧州では敗戦国ドイツが経済大国となり、欧州諸国は、現在の金融危機の克服もドイツに頼っている。東洋でも敗戦国日本が再建し、世界第2位の経済大国になった。同様に、戦争で大きな被害を受けた韓国も、いまや強い工業国として台頭し、中国は部分的に自由市場を取り入れ、経済的に強くなった。

このように、世界は第2次大戦が終わったときの予想通りになっていない。西洋諸国は、中国がアメリカと欧州連合の優位性に挑戦するかもしれない、すなわち、東洋が世界を経済的にも軍事的にも支配するのではないかと恐れている。

しかし私は、中国は軍備の増強に費用を投じるが、軍事的な冒険をしようとは考えていないと思う。なぜなら中国は、核戦争が起きたら、敵国だけではなく自国も破壊されることを知っている。また、日本が悟ったのと同じく、世界の大國となるには経済的優位の

方が遥かに効果的であることも知っている。それよりも、世界が繁栄して中国製品を買うことを望んでいる。中国は軍事的脅威ではなく、多くの国にとって経済的脅威である。

民族・国家・人種の違いは、国や身体的特徴ではなく、文化、特に価値体系の違いである。日本人は勤勉で、失敗を恥とする価値体系、目標達成のために懸命に働く労働倫理によってこれまで成功してきた。

日本はこれから、外国人労働者を採用すべきだ。日本は生活費が高いので、以前から日本の教育機関のマレーシア分校を設立するよう提案してきた。そうすれば、貧困国の学生も日本の職業倫理と文化を学ぶことができる。日本の教師も外国人と円滑に付き合えるようになり、国際交流の改善に貢献できる。

東アジアでは先の大戦による日本への不信感と憎しみが今も続いている。日本は何度も謝罪してきたが、時の指導者が大戦での役割を誇張しようとするたびに、それまでの努力が無駄になっている。一方で、東アジア諸国も過去にこだわり続けるべきではない。欧州では、過去の残虐行為を水に流し、ドイツ兵がフランス革命記念日にパレードに参加できる。東アジアの人たちも、欧州から和解のプロセスを学ぶべきだ。

欧米の金融トレーダーたちが、自らの利益のためにギャンブルをしたことがきっかけでサブプライムローン問題が起こった。結果、欧米諸国の購買能力が大幅に減り、アジアも影響を受け、世界は以前より貧しくなった。

マレーシアは「隣国を栄えさせよ」という1つの信念を持っている。隣国が繁栄すれば、摩擦は少なくなり、良い市場になる。欧米やアジアのコストの高い国は、アジアの途上国に投資をすればコストを下げることができる。そうすれば、途上国を繁栄させ、世界にとって良い市場もできる。

また、日本の技術は大変高度なので、中国や韓国にはできないニッチを探すべきだ。また、日本はアメリカを気にし過ぎている。もっと自己主張をすれば、世界からリーダーとして認められるのではないかと思う。

Hiroko Koshino

特集

大阪の文化力、個性を集約して
もっと世界に発信すべきです。

コシノ ヒロコさんインタビュー



「経済一辺倒では大阪の活性化はない」。そう言い切るのは、大阪・岸和田出身の世界的ファッショントレーナー、コシノヒロコさん。芦屋市奥池のアトリエ「SEMPER」を訪ね、その豊かな感性と鋭い商才の織りなす独特の世界観をお伺いました。

(インタビュアーは当会議場社長の萩尾千里)

ファッションデザイナー コシノ ヒロコ

Profile

大阪、岸和田市生まれ。文化服装学院在学中よりキャリアを重ね、東京、大阪、パリ、ローマ、上海などでコレクションを発表する一方、プラハやハンブルクで異分野のアーティストとのコラボレーションによるイベントも開催。HIROKO KOSHINO の名で5つの婦人服ブランドを展開するほか、バッグや靴、帽子などの小物、ライフスタイル関連グッズ、紳士服など、数多くのファッショニアイテムのデザインを手がけている。近年はファッションだけでなく絵画・書画のアート作品を発表する機会も多く、2011年にはファッションとアートの展覧会を、2012年には絵画だけの個展をパリで開催。1997年第15回毎日ファッション大賞、2001年大阪芸術賞受賞。

朝ドラ『カーネーション』秘話

萩尾 コシノさんのお母様である小篠綾子さんをモデルにした、NHK朝の連続テレビ小説『カーネーション』(2011年10月~12年3月放送)が大変な人気ですね。私はコシノさんとも綾子さんとも長いお付き合いがあるだけに、ご本人の顔を思い浮かべながら、毎回楽しく拝見しています。実生活でもあのようなご家族だったのですか?

コシノ 私は生まれたときから過保護で、どちらかと言えばひ弱な子でした。若い頃はかなり勝気でしたが、今はだんだんお母ちゃん(綾子さん)に似てきたと自覚しています。晩年のお母ちゃんの優しく豊かな人柄と笑顔を鑑(かがみ)として、お母ちゃんを越えて行かなければいけないと思っています。

萩尾 30年近く前、岸和田だんじり祭のときに、コシノさんの実家のパーティにご招待いただきました。ところが、私は誰かとぶつかったはずみで、ヒロコさんの描いた墨絵の屏風に赤ワインをバッとかけてしまったのです。すると、部屋に入ってきた綾子さんは一瞬驚いた様子でしたが、すぐに事情を察して「まあ、きれい!花が咲いたみたいやね」と笑顔でおっしゃったのです。その機転がすごい、本当に肝っ玉母さんだと思いました。

コシノ お客様を不安がらせない優しさとウイットが、お母ちゃんのいいところでした。でも本当のことを言うと、有名な画家の絵ではないので、「ヒロコが描いた絵やから、また画いてもらたらええわ」という気楽な気持ちだったと思います(笑)。

萩尾 『カーネーション』の人気の秘密はどこにあると思われますか?

コシノ ある週刊誌に、辛口の随筆で知られる評論家のコメントが掲載されていました。「これまでの朝ドラのヒロインの描き方は、男性に尽くす女性、耐える女性が多くて興味が持てなかつたが、『カーネーション』は主人公と周囲の女性たちが強い意志と自己主張をぶつけ合うところが潔い」という内容でした。

また、日本の家族の温かさ、面白さ、飾り気のなさ、温かい近所づきあいなど、忘れ去られていた昔の日本の良さがしっかり描かれていること。テンポがよく、毎週ドラマがあり、次の展開を期待させる渡辺あやさんの脚本のうまさ。そして、俳優もそれぞれ個性的で、上手に岸和田弁を喋るので、見ていて楽しいということでした。私自身、確かに従来の朝ドラとは全く質が違うと感じています。

萩尾 家族の人間臭さが出ているから面白いのですね。たくさん反響があるでしょう?

コシノ 想像していた以上に大きな反響です。私たち家族は、これまで何度もテレビドラマやお芝居になっていますが、今回は家の中まで全てをぶっちゃけて、克明に描かれています。演出上の細かいフィクションはあったとしても、事実から大きくはずれることなく忠実に描かれています。私たちの幼い頃、若い頃の情景がありありと再現されていて、ドラマの登場人物と一緒にになって、

泣いたり笑ったりしています。半年という長期にわたるNHKの連続ドラマだから表現できるのだと思います。NHKは世界中で見ることができるので、今回のドラマは関西を世界にアピールするきっかけになるかも知れないと感じています。

萩尾 綾子さんがドラマのモデルになったのは、ヒロコ・ジュンコ・ミチコの三姉妹を世界的デザイナーに育て上げた母親だったからであり、ヒロコさんが妹たちをうまくまとめて来られたからだと思います。

コシノ 長女の私は昔ながらの風習で、生まれたときから跡継ぎとして家を守るという責任を課せられていました。一時は強く抵抗したこともありましたが、長女としての責任感から、何とか自分の好きな絵とデザインという世界を見つけました。長女というのは何かについてバイオニアなのです。妹たちもそれぞれ個性を持って活躍していますが、私の敷いたレールに乗っかって来たのです。最初の路線を引くための苦労は、妹たちには想像もつかない体験だと思います。

ファッションで大阪を活性化

〈コシノ三姉妹ファッションショー〉

萩尾 1982年11月、コシノ三姉妹のファッションショーが、南御堂難波別院の境内に建てた巨大テントを会場に開催されました。翌年から始まる大阪21世紀計画のイベントとして、大阪の行政と経済界の協力で実現したものでした。当時、私は朝日新聞経済部の記者で、『関西ジャーナル』という財界専門紙の折目允亮社長(故人)から初めてコシノさんを紹介されました。

コシノ 最初、折目さんが、世界的テントメーカー、太陽工業の能村龍太郎会長(故人)に引き合わせてくれました。そして「関西の復権と活性化のために、大阪からスターを誕生させよう」という趣旨で、私にファッションショーのお話をいただいたのです。それに対して私は、三人三様の作品を発表する方が幅広い客層にアピールできると考えて、ヒロコ・ジュンコ・ミチコの三姉妹によるファッションショーを提案しました。

萩尾 狙いは的中し、驚くほどの大反響がありました。ほぼ全ての主だったテレビと新聞がショーの模様を大きく報道し、東京からも大勢のマスコミが取材に来ました。昨今、関西の地盤沈下や発信力の低下が危惧されていますが、三姉妹ショーや『カーネーション』の成功でわかるように、個性を持った人が役割を果たせば、広く世の中に情報発信することができるのです。関西にはまだまだそのポテンシャルがあると思います。

〈大阪コレクション〉

萩尾 三姉妹ショーの成功を受けて、「大阪コレクション」というファッション事業が誕生しました。コシノさん、能村さん、折目さん、そして私の四人でゴルフをしていたときに、コシノさんから



「大阪でクリエーターが発表できる場づくりができるないか」という提案があり、我々が大阪の行政や財界に働きかけて実現したものです。1987年から2005年まで足掛け19年続き、コシノさんを始めとする著名デザイナーのほか、たくさんの新人や海外からの参加者がここでデビューを飾りました。手作りの事業だったので、いろいろな折衝や事務局を引き受けてくれた折目さんもよく尽力してくれました。そして、コシノさんのショーは毎回チケットが完売し、定員をはるかにオーバーするほどの集客力でした。

コシノ 当時はパリ、東京、大阪で年2回ずつ、年間6回コレクションをしていたので、時間的にも資金的にもハードでしたが、大阪への恩返しという気持ちで続けていました。経済一辺倒では大阪は活性化しません。大阪の持つ個性や文化的な部分を確実に一つの形にして、発展の基盤にすることが重要です。それは私個人の力でできることではなく、地域を挙げての協力が不可欠ですが、残念ながらクリエーションに対する理解は全く得られませんでした。大阪の人は基本的に、すぐお金になるものにしか価値を認めないので。

萩尾 大阪の行政も経済界も、大阪のために一生懸命やっている人を支援しようという気概がないのが欠点です。繊維業界も、自らの業界を繁栄させるにはデザインから始めなければいけないという認識がなく、目先の商売しか考えていません。コシノさんはもちろんビジネスも上手ですが、大阪コレクションには大きな労力を投じて、20年近くもリーダー役を務めてくれました。

コシノ 自分でもよく続いたと思っています。いくら続けても格好がつかなければ、普通なら匙を投げてしましますよね。お母ちゃんは常々「私利私欲だけに走って仕事をしてはいけない。周りの人たちが幸せになることを願う基本姿勢がなければ、何事も成功しない」と言っていました。大阪がいま停滞しているのは、サントリーの佐治敬三会長や、太陽工業の能村会長のように、大阪全体の底上げを真に考えていた、かつての立派な財界人が亡くなってしまったことが、大きな原因の一つだと思います。

文化こそ人間の根幹

コシノ 今の大阪の企業は、経済環境が悪くなると、次々と東京へなびいて行ってしまいます。もともと大阪で旗揚げしたのなら、大阪という基本をしっかりと踏まえた上で、東京へ出て行くべきです。大阪を足蹴にして出て行くという姿勢では、自らの足も引っ張ることになり、絶対に世の中は発展しません。一社ぐら抜けても大丈夫だろう、ではないのです。大阪全体が豊かになるにはどうすべきなのか、もっと真剣に考えなければいけません。

萩尾 大阪の人はすぐに結果を求めます。先を見通して、辛抱

強くものごとを育てようとしていることが、今の大阪の一番弱いところだと思います。大阪には素晴らしい伝統文化があり、現代文化でも才能のある人材がたくさんいます。そういう人たちを支援し、育成し、活用していくという姿勢がなければ、文化は育ちません。それでは大阪の発展はありません。

コシノ 文化というのは、人間の一番基本的な部分、必要な部分です。お金は文化があればついてくるものです。そういうレベルでものが考えられないから、目に見えないものに対してお金を出そうとしないのです。行政でも同じです。経済や政治に理解があっても、文化に関心がなく、どんどんカットしていくのはよくないと思います。もっと人間的であるべきです。政治でも何でも、いろんな苦労や経験をしないで、頭の中だけでこね回したものはどこかで必ずひずみが出てきます。そんな理屈は人の感動に値するものではないのです。首長の周りには各分野のエキスパートをつけて、いろんな角度からの意見を容れながら、大阪を全体としてどの方向にもって行くかを考えていきたいと思います。

また、人間の価値は、文化力を基準に測るべきだと思います。世界の人たちが集まったときに、今の日本が爪弾きされるのは、文化力が非常に弱いからです。文化的な裏づけがなければ、政治も経済も世界で存在感をアピールすることはできません。

萩尾 コシノさんはビジネスセンスも優れていて、しっかりした財政基盤を持っておられます。そういうところが、まさに大阪の基盤だとも言えるのではないでしょうか。

コシノ 私は祖父から美意識の素養をもらい、お母ちゃんからはビジネスの素養を受け継ぎました。祖父はものすごく遊び人でしたが、私が幼いときから、歌舞伎などの日本の伝統文化にふんだんに触れさせてくれました。三人姉妹の中で私が一番多くの機会をもらったと思います。『カーネーション』にも描かれていますが、お母ちゃんは世の中の変化に合わせて、商売のネタを探するのがとても上手でした。戦争になってしまって軍服の生地を使って服をつくり、商売になると思ったら店員も増やすなど、非常に積極的でした。

創造と経営は表裏一体

萩尾 コシノさんの着物的な色彩感覚は特に素晴らしいと思っていましたが、お祖父さんの影響も大きいわけですね。また、絵も描き、三味線も弾くという豊かな感性が、コシノさんのデザインに生きています。

コシノ 日本では、デザイナーはクリエイティブなことだけをしていたら「偉い先生」で通るのですが、実は、いま成功しているデ

デザイナーはみんなマーケティング力を兼ねそなえています。一方、たとえ大企業のオーナーでも、感性と創造力を持っていなければ、決して成功しないと思います。自分の持つ感性を、どういう風に経営に取り込み、どのような形で表現するかは、デザインと同じ手法です。経営もデザインだと思います。例えば、アート引越センターの寺田千代乃社長が、女性の知恵で会社をここまで発展させたのは、もともとデザインの素養があって、そこにビジネスを乗っけたからに他なりません。人の心や精神を揺さぶるような感動は、数字で表すことはできません。十分に満たされた生活の中で、なおもう一つお金を出しても買おうという気になれるには、感動を提供しなければいけません。日々の生活の中には、服だけではなく、音楽やインテリアなど、感動や情緒が隅々まで溢れています。幅広い視野と優れたバランス感覚がなければ新しい現代生活を楽しむことはできません。数字だけ



は無味乾燥です。私は若い頃から、デザイナーとして常に先を見越して仕事をしてきたので、これからどんなデザインが流行するかを感覚的に予測ができます。それが察知できなければ、こんな仕事はできません。

萩尾 コシノさんのショーは何度も見ましたが、奇抜な発想もありながら、非常に現実的なところもおさえています。若い人をターゲットにしたファッションが多い中、コシノさんのブランドは中高年の落ち着いた生活者のファンが多いようですね。

コシノ 私も若いときは若いデザインをしました。今は、若い感性を中高年にうまくアジャストできていると思います。こんな服が着てみたいと夢見ている世界を、現実に着られる形に表現している点が評価されているのだと思います。自分の生活を基本にしてものを考えているから、私のデザインにはアリティがあります。売ることを先に考えたら、絶対にいいものはつくれません。私は一見、売れそうにないものをつくっているように見えますが、実はしっかりマーケティングを意識した上で、美意識をふんだんに盛り込んでいます。そのへんのバランス感覚が重要です。

萩尾 それがある意味では、大阪の精神だといえるでしょう。

1%の才能・99%の努力

コシノ 着物から洋服の時代になり、ミシンで布を縫い合わせ

る以外に何の技もなかったお母ちゃんが、知恵をしほってどんどん人に服をつくり、能力を開花させていきます。祖父は最初、お母ちゃんを勉強のために生地屋へ働きに行かせ、商売を繁盛させて来いと言い渡します。じっと待っていてもお客様が来ないので、お母ちゃんは無料で立体裁断するサービスを思いつき、生地は飛ぶように売れました。そんな調子で、一軒の店を繁盛させるたびに努力は身につき、自分で独立して商売ができる素地が着々と培われていきます。人間は努力すれば無限の可能性があるのです。今の人たちは、人のことは批評しても、自分ではあまり努力しないのが気になります。

萩尾 コシノさんは努力家だと思います。

コシノ お母ちゃんもそう言っていました。人間は才能だけでは一流にはなれません。才能は誰もが公平に持っていると思います。それを形にすることは99%が努力です。どれだけ努力するかによって、一流になるか、二流、三流で終わるかが変わってきます。私たち三姉妹が成長できたのは、ライバル関係があったからです。妹たちはお姉ちゃんには負けないとと思っていたし、私も妹たちには負けないとっていました。目の前の相手との強いライバル意識が、お互いを高め合う動機になったと思います。

萩尾 まさに岸和田のだんじりの世界ですね。小さいときの体験は、人間の素地を形成するのに大切です。

コシノ 確かにだんじりは、知らず知らずのうちに私たちのエネルギーの源になっていると思います。また、お母ちゃんが忙しいので、私に十数つもの習い事をさせたことも、私の美意識の形成や、柔軟な発想に非常にプラスになっています。あれは無駄だったと思う体験は何一つありません。

萩尾 私の父は熊本出身で、学校の先生でした。剣道も強かったです。尺八、絵画、三味線などの芸事もたしなみました。一方、母は豊中出身で、そんなもので飯が食えるかと言っていました。いつも美意識と実利で喧嘩していました。

コシノ 二人とも同じでない方が、バランスが取れていいですね(笑)

大阪のよさを世界へ発信

萩尾 ところで、大阪が元気になるために、何かご提案はありますか?

コシノ これまで大阪を見てきて、いろいろ足りない部分を感じてきました。でも、大阪の人たちは、本質的には非常に素晴らしいものを持っていると思います。ある意味でとてもクリエイティブです。特に、中小企業の経営者にはアイデアマンがたくさんおられます。NHKの『ビジネス新伝説 ルソンの壺』という番組をよく見ますが、本当に面白い中小企業が多いですね。彼らの共通点は、「このアイデアで人が喜んでくれるのではないか」と考えていることです。人に喜んでもらうことを基本に発想できるのが、本当



の大阪人です。それが、大阪の漫才や落語の基本にもなっています。ところが、いゝものがいっぱいあるのに、発信できていないのが大阪の問題です。大阪にある素晴らしいものを全部集めて、何らかの形にして、大阪の個性をもっと発信するべきです。

萩尾 それには誰がコーディネーターになるべきでしょうか？

コシノ コーディネーターも必要ですが、例えば、今お話ししたようなテレビ番組で紹介するなど、マスコミの協力が重要だと思います。その意味で、『カーネーション』も大いに情報発信に貢献しています。民放では無理かもしれません、NHKは大きな予算を取って、感動させる番組をつくっていると思います。

萩尾 民放も新聞社も、もう少し地域に目を向けるべきですね。もっと人を取り上げれば地域の匂いが出てくると思いますが、今は非常に画一的な、さらっとした報道になっています。

コシノ ITの発達によって、ネットで検索すれば何でもわかる時代になっていますが、やはり新聞は重要です。先日ある新聞記者から、新聞に対して何か要望はないかと聞かれました。毎日配達されてくる新聞には、いろんなジャンル、いろんな視点の記事が満載です。全体に目を通すことで、自分の主観だけでものを見るのではなく、全体を客観的に見ながら、改めて自分の見たいものをしっかり見ることができます。それができるのは新聞だけだと思います。だからどの新聞も、経済や政治、スポーツだけに偏らず、文化を始めさまざまな分野に公平に紙面を使って、それぞれプロフェッショナルな観点でしっかり記事を書いてほしいと思います。そうしなければ新聞はだめになります。

アジアにおける日本の役割

萩尾 世界を舞台に活躍されている立場から、アジアとの付き合い方についてご意見をお聞かせください。

コシノ アジアには、昔の日本を見ているかのような地域がまだたくさんあり、そこには人間の心の温かさも残っています。でも、急速に経済発展したために、人間の精神文化が置き去りにされているように思える国もあります。そういうものは美しくありません。人を感動させるのはお金ではありません。精神的に豊かでなければどうしてもお金に走ります。アジアから先進国へ留学したり、仕事をしたことのある人たちが、もっと愛国心を持って自分の国を指導していくぐらいの気概が必要です。野放図なままで洗練されたものがなくなっています。そして日本としては、自然環境や人間らしさの残されたアジアの地域が、先進国にメチャクチャにされないように守り、各地域が力を發揮してよい形で発展できるようサポートしていくべきだと思います。

萩尾 精神的な成長が伴えば、アジアはまだこれから大いに期

待ですね。

大阪・関西のこれから

萩尾 最後に、関西の持つ豊かなポテンシャルを生かす方法について、アイデアはありますか？

コシノ 私も悩むところです。関西の活性化のために提唱した大阪コレクションも、残念ながら20年足らずで幕を閉じてしまいました。皆さんの理解を得るには、時期が早すぎたのかもしれません。

萩尾 いろんな方面にインパクトを与えたにもかかわらず継続できなかったのは、行政や経済界にそれだけの認識がなかったからです。それに、コシノさんと一緒にやっていけるだけの財力のあるデザイナーが、大阪にはいなかったのかもしれません。

コシノ 行政や経済界に頼ろうとするクリエーターも甘いです。誰にも頼らず、自分たちの手で物事をつくりあげていこうという情熱のある人材が育っていたら、もっと継続、発展したでしょう。私はそういう気持ちでしたが、一人ではできません。やる気さえあれば、友達に自分の服を着せて街頭を歩かせるだけでも、ファッションショーはできます。そんなドブ板作戦をしてでもがんばる意欲と迫力のある、若いクリエーターがいなかったのです。そこまでするぐらいなら、東京へ行ってしまう。大阪のことを愛していないのが根本的な原因かもしれません。

萩尾 それも一理ありますね。世界で活躍しながら、大阪・関西に愛着を持ち、この地の発展のために尽くしてこられたコシノさんの姿勢は、企業もクリエーターもそう簡単に真似ができるのではないかかもしれません。

コシノ 過去のことを言っても仕方ないので、今後どうすればいいかを考えると、大阪は中央政府に頼らず、自立できる力をつけることが重要だと思います。東日本大震災で、日本は本当に大変なことになってしまいました。今後もしも首都直下型地震が起きて、日本の中枢機能が麻痺してしまったら、大阪・関西が日本を支えなければなりません。そのための土台を今のうちに整備しておかなければ、日本は大変危険です。大阪・関西だけではなく、日本を端から端までまとめる国にしていく方策は、偉い人が東京に集まって議論してもできません。いつ何時、日本のどこで何があっても、それぞれの都市が自分で考え、健全に都市を運営していくだけの力をつけていかなければならないと思います。

萩尾 文化から経済、精神論にいたるまで多岐にわたって、大変機知と創造性に富んだお話をいただき、ありがとうございました。

【注】大阪コレクション

「大阪のファッション産業振興」と、「世界の檜舞台で活躍できる若いクリエーターの発掘・育成」を目的に、大阪府・大阪市・大阪商工会議所・大阪21世紀協会・関西経済同友会が構成する委員会が、1987年から開催した関西最大のファッション事業。行政の財政難などを理由に、ショー形式を廃止した2005年までの間、著名デザイナーのほか、全国から選考した新人、アジアやヨーロッパの若手ら、160組を超えるデザイナーが参加。大コレを機に本国でメジャーになった海外参加者の事例も多い。また、大阪コレクションをモデルに、ソウルコレクション、旭川コレクションも誕生した。

大阪国際会議場の安全対策

大阪国際会議場は、2000年3月、都心に位置する中之島の堂島川に面して建てられました。国際会議をはじめとした各種会議・展示会・コンサート等多目的に活用できる施設として、故 黒川紀章氏によって設計され大阪の新しいシンボルとなっています。

2754名収容のメインホール、イベントホール、1000名まで収容可能な中小会議室の3つの無柱空間の巨大建築が、6本の芯柱で持ち上げられている構造になっており、梁の一部に特殊な緩衝材を使うなど新耐震基準を満たした安全な建物は、梁を外壁に出したダイナミックな建築造形からもうかがい知れます。



他にも安心してご利用いただくための設備として、館内の電気は関西電力と常時3回線で結ばれており、1回線停電しても残りの2回線で停電することなくご利用いただけます。

もしもの時は、自家発電機で

仮に3回線共停止した場合、停電を検知して長時間運転可能な非常用発電機が自動で起動し、防災用電源を確保します。

また、ガスエンジンによる発電機で会議室・共用廊下等の照明の3分の1程度を点灯させることができますのであわてず落ち着いて行動することが出来ます。



【非常用発電機】最長約12時間の発電能力があります。

大雨で道路が冠水した時

台風や大雨で道路が冠水した場合、地下駐車場に向かうスロープから水が流れ込み、地下階が水没する恐れがあります。

その対策として敷地内に設置したセンサーが水を検知し、自動的に防水扉を起動させスロープを閉鎖。水の浸入を防ぎます。



ご安心してご利用いただくために

安心してご利用いただくために、監視カメラを館内に配置し防災センターのモニターテレビで日々監視を行っていますが、館内のお客様には、破損、あるいは盗難によるお荷物の紛失には十分ご注意いただきますようお願い申し上げます。

Event Topics

多彩な催しが開催されました。

器楽合奏 2012

2012年2月4日(土)/メインホール

今年で37回目となる、幼児の器楽合奏大会が開催されました。

この大会は、演奏技術の向上を図るのみならず、集団活動による心のふれあい、規律の徹底など、個人では学べないことを学んでいます。今年の大会では、8つの幼稚園や保育園のみなさんが、第一部と第二部にわかれ日頃の練習の成果を元気一杯の演奏で表現、「マル・マル・モリ・モリ」の合同合唱でフィナーレを飾りました。(主催:西日本幼児器楽合奏大会実行委員会)



第50回 日本癌治療学会学術集会 サテライトシンポジウム

UICC世界対がんデー公開シンポジウム

2012年2月4日(土)/12F特別会議場

がんの予防と患者支援のために活動している世界対がん連合(UICC)が、毎年、世界中で一斉にイベントを行う2月4日(世界対がんデー)に、日本では、UICC日本委員会、日本対がん協会、日本癌治療学会の共催にてこのシンポジウムが行われました。「がんの痛みからの解放」をテーマに各先生にご講演をいただき、活発なディスカッションも行われ、300名をこえる方にご来場をいただきました。

(主催:UICC日本部会、日本対がん協会、日本癌治療学会)



第84回 日本胃癌学会総会

2012年2月8日(水)~10日(金)/メインホールほか

新しい学術集会の方向性を打ち出したいとの意図から「変革・連携・発信」をテーマに第84回日本胃癌学会総会を2012年2月8日(水)~10日(金)の3日間にわたり開催いたしました。参加者総数1970名・発表演題総数1039題・海外からの参加者は144名であり、非常に活気にあふれた学会総会になりました。

(主催:独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター外科)



第10回日本フットケア学会 年次学術集会

2012年3月17日(土)・18日(日)/メインホールほか

「チームで取り組むフットケア～互いを知ってよりよい連携～」というテーマで第10回日本フットケア学会が2日間にわたり開催されました。あらゆる診療科の医師、看護師等のパラメディカル、さらには義肢装具士など様々な医療職の方々が来場され、過去最高の1800名を越える参加者で盛会となりました。あわせて市民公開講座も開催され、多くの方々にお越しいただきました。

(主催:大阪市立大学大学院医学研究科 皮膚病態学)



Event Calendar

	会期	催事名
6月	2(土)・3(日)	MONKEY MAJIK JAPAN TOUR 2012
	2(土)・3(日)	第28回 日本眼科看護研究会
	7(木)・8(金)	TUYOSHI NAGABUCHI RUN FOR TOMORROW HALL TOUR 2012 Unplugged Live
	8(金)・9(土)	第32回 日本骨形態計測学会
	12(火)・13(水)	イシダフェア 2012 in かんさい
	13(水)・14(木)	サウンドフェスタ 2012
	15(金)・16(土)	第50回 平田感謝祭オレンジフェア 2012
	16(土)	第113回 日本循環器学会近畿地方会
	16(土)・17(日)	THE ALFEE Neo Universe 2012 Flowers
	21(木)・22(金)	第55回 関西胸部外科学会学術集会
	22(金)～24(日)	T-ARA JAPAN TOUR 2012 ~ Jewelry box ~
	26(火)・27(水)	第42回 彩食展
	27(水)・28(木)	遊助 “あの..絶対オイラにしかできないですケド”
	1(日)	及川光博ワンマンショーツアー 2012 『銀河伝説』
	4(水)・5(木)	富士通フォーラム
	5(木)	沢田研二 LIVE 2012
	13(金)・14(土)	第19回 日本産業精神保健学会
7月	14(土)	外国人学生のための進学説明会 2012
	14(土)	楽天証券サービス開始13周年記念 投資セミナー
	16(月)	琴伝流大正琴「第10回 大阪大会」
	20(金)・21(土)	SOUL POWER なにわ SUMMIT 2012
	22(日)	平原綾香 Concert Tour 2012 ~ドキッ!~
	26(木)～29(日)	第10回 日本臨床腫瘍学会学術集会
	5(日)	第94回 全国高校野球選手権大会組み合わせ抽選会
	6(月)・7(火)	遊助 “あの..絶対オイラにしかできないですケド”
	8(水)・9(木)	w-inds. LIVE TOUR 2012
8月	10(金)・11(土)	第51回 大阪府吹奏楽コンクール
	15(水)	スター・ウォーズ in コンサート
	18(土)・19(日)	YUKI LIVE "BEATS OF TEN"
	25(土)・26(日)	HIROMI GO CONCERT TOUR 2012 "LINK"
	28(火)	はじめてのクラシック ~中学生・高校生のために~

Conference room & Hall



12F 特別会議場

世界のVIPをお迎えする場にふさわしいハイグレードな空間。



10F 会議室

全25室の会議室。10人から1,000人規模の会議・セレブレーション・展示会等に対応。



5F メインホール

最大2,754名収容。国際会議、各種式典、コンサートまで、さまざまな用途に対応。



3F イベントホール

広さ2,600m²、高さ9.4mの無柱空間。規模に応じて分割可能。

Restaurant & Cafe

12F レストラン グラントック

地上80mの高層から大阪を一望。メニューは魚介類を中心とした南欧風料理。昼は和定食もご用意いたします。個室も2室(18人・10人)ございます。



11:00～14:00

※貸切営業の場合もございますので予めお問い合わせください。
※時間外はご予約にて賜ります。

06-6441-1485

5F カフェテリア キューブサンク

セルフサービス方式の、リーズナブルなお値段で気軽にご利用いただけるカフェテリアです。

※高速ワイヤレスインターネット「フレッツスポット」と「HOT SPOT」と「Mzone」をご利用いただけます。



11:00～15:00

(ラストオーダー 15:00)
※催事の状況により営業時間を延長する場合があります。

06-4803-5563

2F ティールーム カフェキューブ

モダンなインテリアの中でくつろぎのひとときを。喫茶を中心に、カレー等の軽食もご用意しております。

※高速ワイヤレスインターネット「フレッツスポット」と「HOT SPOT」と「Mzone」をご利用いただけます。



9:00～20:00

(ラストオーダー 19:30)
06-4803-5561

1F オープンカフェ カフェプラザ

※季節営業
木立に囲まれたオープンスペースで、各種ドリンク、パン等の軽食をご用意。和やかな語らいの場所としてご利用ください。



編集後記

風薫る五月から初夏へ、緑が最も映える季節となりました。今号の特集は、朝ドラ「カーネーション」のヒロインのご長女で、世界的デザイナーのコシロヒロコさんのインタビューです。大阪発の文化を熱っぽく語っていただきました。また、去る4月25日に当会議場で開催された、関西・大阪文化力会議の講演内容の一

部を抜粋して掲載しました。マハティール元マレーシア首相は、大変気さくな人柄で、講演の翌日は、日本橋、道具屋筋また東大阪の中小企業など、庶民の町大阪を視察されショッピングも楽しまれていました。当会議場は、これからも総合交流施設としての役割をさらに広く担ってまいります。



〈電車〉

- 京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約10分
- JR東西線「新福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 大阪市営地下鉄「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)から徒歩約10分

〈バス〉

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪市営バス(53系統 船津橋行)または(55系統 鶴町四行)で約15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行しており、ご利用いただけます(定員28名)
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」(4番出口・住友ビル前)から約15分

大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

Osaka International Convention Center

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51 TEL.06-4803-5555(代)

●編集・発行/株式会社大阪国際会議場 ●発行日/2012年5月21日 ●http://www.gco.co.jp/